

ツイッターやフェイスブックを通じた情報収集 — インドの英字新聞を中心に —

坂井 華奈子

チュニアアで起きた革命に
ツイッター (Twitter: <http://twitter.com>) やフェイスブック
(Facebook: <http://www.facebook.com>) が大きな影響を及
ぼしたことは記憶に新しい。

ツイッターとは、ツイート
(つぶやき) と呼ばれる一四
〇文字の情報を発信し、また
さまざまなアカウントを
「フォロー」することで情報
を受信し、「コミュニケーション
」できるソーシャル・ネット
ワーキング・サービス(以下
SNS) と呼ばれるもののひ
とつである。日本語版サイト
に「Twitterは、世の中の「今」
を知る最高の方法です」と書
かれているように、世界中の
利用者と瞬時に情報交換がで
きる。一四〇文字という限ら
れたテキスト情報とあなどる
なかれ、リンクを埋め込むこ
とで詳細情報を掲載したウェ
ブ上のページや動画サイトへ
のリンク、写真を添付するこ
ともできる。一方で、フェイ
スブックは実名で登録するな
ど、ツイッターに比べて利用
者同士の関係性の持つ意味が
より濃いものになっている。
また、個人でなく企業・団体

等の運営するページは「ファ
ンページ」と呼ばれ、そのペー
ジにアクセスしてタイトル
横に表示される「いいね!」
というボタンをクリックする
と、自分のページに投稿が流
れてくるようになってくる。
このようなSNSはパソコ
ンだけでなく携帯電話からも
利用可能であり、素早く手軽
に情報を受発信することがで
きるようになった一方で、東
日本大震災の際にツイッター
等を通じて急速にデマが広
まってしまったなど、真偽を
見極めるのが難しいという問
題も指摘されている。ソー
シャルメディアに限ったこと
ではないが、情報を鵜呑みに
する前に発信源の信頼性や
ソースを確認することは重要
である。

ツイッターやフェイスブッ
クでは一般の個人だけでなく、
著名人や企業、マスメディア
等が公式に運営しているアカ
ウントも多い。そうしたチャ
ネルを通じて、信頼で
きる情報を収集することがで
き、またその情報にコメント
などを追加して再発信し、
フォローとコミュニケー

ションすることも可能である。
ここでは、インドの英字新
聞についてアジア経済研究所
図書館で所蔵しているものを
中心に表として紹介する。記
事の更新情報をRSSで配信
している場合も多いため、併
せて掲載した。RSSリー
ダーを利用すると、逐一各サ
イトへアクセスして更新の有
無を確認せずとも登録した更
新情報を一括して確認するこ
とができて便利である。

そのほかに、信頼性の高い
情報源の一例として、経済産
業省では「公共機関ソーシャ
ルメディアポータル」を作成
し、ツイッターアカウントの
運用を行っている公共機関一
覧をまとめている (<http://smp.openlab.go.jp>)。イン
ド政府がフェイスブックに二
〇一二年から二〇一七年の第
二期五カ年計画に関する公
式ページ ([http://www.face-
book.com/TwelfthPlan](http://www.facebook.com/TwelfthPlan)) を
作成し、市民からの意見を募
集するという試みを実施して
いるのも興味深い。また、二
〇一一年のインド国勢調査に
ついてはツイッター ([http://twitter.com/#/indiacen-
sus2011](http://twitter.com/#/indiacen-
sus2011)) とフェイスブック
([http://www.facebook.com/
Census2011](http://www.facebook.com/Census2011)) の両方で情報
を発信している。

情報の受け手になるだけで
なく、自ら発信することで共
通の関心を持つ人々との新た
なつながりが生まれることも
SNSの特徴である。関心の
あるキーワードで検索してそ
うした利用者を探すのもよい
し、ツイッターの場合にはひ
とつ関心のあるアカウントを
みつけると、その画面からそ
れをフォローしている利用者
の一覧をみることもできるた
め、芋づる式に探すこともで
きる。また「リスト」という
機能を利用すると自分の関心
テーマごとにアカウントを分
類し、一覧することが可能で
ある。他の利用者が作成し公
開しているリストをフォロー
することもできるため、関心
領域が重なる利用者のリスト
をみてもみるのも一興である。
アジア経済研究所でもウェ
ブサイトの更新情報を一部R
SSで配信しており、ツイッ
ター ([http://twitter.com/#/
idejeto](http://twitter.com/#/idejeto)) と連携させている。
自動配信のため「ご意見に対
する個別回答等は控えさせて
頂きます。」としているが、
最新情報をキャッチするため
には有用だろう。ぜひ活用
いただきたい。

(注) *1 かなこ/アジア経
済研究所図書館

Title	Twitter (*1)	Facebook (*2)	RSS	備考
The Economic Times	economictimes	EconomicTimes	http://economictimes.indiatimes.com/rss.cms	1961年創刊。Times of Indiaと同じ発行元。インド最大の経済・金融関係専門紙。Twitterではヒンディー語版、グジャラーティー語版、27のセクション別アカウントもあり。RSSもニュースページの種別ごとに用意されている。
The Hindu	the_hinduおよびthehindu	TheHindu	http://www.hindu.com/thehindu/rss/index.htm	1878年創刊。1995年、インドの新聞で初めてオンライン版を開始。Facebook、Twitterともに新聞社ウェブサイトからのリンクがみつけれず、公式かどうか不明。各記事のページからTwitterやFacebookなどへの投稿ボタンあり。
Hindustan Times	httwweets	hindustantimes	http://www.hindustan-times.com/RSSFeed/RSSSubSectionPage.aspx	1924年創刊。姉妹紙としてヒンディー語のHindustanやビジネス誌Mint等があり、同様に更新情報を配信している。
The Times of India	timesofindia	TimesofIndia	http://timesofindia.indiatimes.com/rss.cms	1838年創刊。イギリス資本によりBombay Times and Journal of Commerceとして創刊され、1861年、他3紙と合併してTimes of Indiaとなる。

(注) *1 ブラウザのアドレス欄に<http://twitter.com/>に続けてアカウント名を入力 (出所) 各サイトより筆者作成。備考はアジア経済研究所図書館の南アジア新聞紹介 (http://www.ide.go.jp/Japanese/Library/Region/South_asia/south_asia_news_papers.html) も参考にしている。